

感染症定期報告感染症別文献一覧表(医療機器2024/10/1~2025/3/31)

ID	感染症(PT)	出典	概要
1	E型肝炎	IDWR. 26:39(2024)2-5	2024年10月2日集計分。4類感染症：E型肝炎7例。感染地域(感染源)：北海道3例(豚肉2例、焼肉1例)、千葉県1例(生焼けの牛肉/牛レバー)、神奈川県1例(生の豚肉)、岡山県1例(不明)、国内・国外不明1例(不明)。2023年第39週から2024年第38週までに診断されたものの報告遅れとして、E型肝炎2例。感染地域(感染源)：東京都1例(ローストビーフ)、インド/台湾/ベトナム1例(不明)。
2	E型肝炎	IDWR. 26:41(2024)3-5	2024年10月16日集計分。4類感染症：E型肝炎10例。感染地域(感染源)：北海道2例(牛肉1例、不明1例)、岩手県1例(不明)、山口県1例(不明)、福岡県1例(不明)、国内(都道府県不明)2例(ジンギスカン1例、不明1例)、中国1例(羊肉)、国内・国外不明2例(不明2例)。2023年第41週から2024年第40週までに診断されたものの報告遅れとして、E型肝炎1例。感染地域：国内・国外不明_感染源：牛生肉。
3	インフルエンザ	CDCホームページ. https://www.cdc.gov/media/releases/2024/p0401-avian-flu.html	2024年4月1日、テキサス州の報告により米国のヒト1例における高病原性鳥インフルエンザ(HPAI)A(H5N1)ウイルス(H5N1鳥インフルエンザ)陽性反応を米国疾病予防センター(CDC)が確認した。当該患者はテキサス州でHPAIに感染していると推定される乳牛と接触していた。患者は唯一の症状として目の充血(結膜炎と一致)を訴えたが、回復しつつある。患者は隔離され、インフルエンザ用の抗ウイルス薬で治療を受けている。この感染によって、米国一般市民に対するH5N1鳥インフルエンザのヒト健康リスク評価が変わるものではなく、CDCはリスクを低いままとみなしている。しかし、感染したトリや他の動物(家畜を含む)、又は感染した動物によって汚染された環境に近距離又は長期にわたって無防備にさらされた人は、感染のリスクが高くなる。 米国でインフルエンザA(H5N1)ウイルスの陽性反応が報告されたのは今回が2例目であり、1例目は2022年にコロラド州で発生している。H5型鳥インフルエンザは、米国及び世界的に野鳥の間で流行しており、また、商業用及び庭先の家禽飼育で発生を引き起こし、哺乳類でも散発的に感染がみられる。乳牛のHPAIは、2024年3月25日に米国農務省(USDA)によりテキサス州とカンザス州で初めて報告された。カンザス州の2農場とテキサス州の1農場で採取された発病ウシの未殺菌乳と、テキサス州の別の酪農場のウシの咽頭ぬぐい液から、世界的に鳥類で広まっている系統と同じ遺伝子クレード2.3.4.4bのHPAI A(H5)ウイルスが陽性と判定された。2024年3月29日、USDAの国立獣医サービス研究所(NVSL)は、テキサス州から最近ウシを受け入れたミシガン州の乳牛群でHPAIを確認した。 A(H5N1)ウイルスの予備的分析では、これらのウイルスが現在米国FDAに承認されている抗ウイルス薬に耐性を持つような変化は見つかっていないため、これらのウイルスには抗ウイルス薬が有効であると考えられる。関連するクレード2.3.4.4bのウイルスに対して開発されたワクチン候補ウイルスは、必要に応じてワクチン製造に利用可能であり、予備的分析によれば、H5N1インフルエンザウイルスに対して妥当な予防効果を示す可能性がある。 CDCの暫定的勧告によると、HPAI A(H5N1)ウイルス感染が確認又は疑われる野鳥、家禽又はウシを含む家畜等の発病した動物、並びに動物の死骸、生乳、糞便への無防備な接触を避けるべきである。HPAI A(H5N1)ウイルスの感染が確認又は疑われる動物の未殺菌(生)牛乳やチーズ等の生乳から作られた製品等、未調理又は加熱不足の食品や関連する未調理の食品を調理したり食べたりしてはならない。 米国FDAとUSDAによると、市販の牛乳は市場に出回る前に低温殺菌されているため、現時点では安全性に懸念はないとのことである。
4	クロイツフェルト・ヤコブ病	ProMED-mail 20240511.8716445	2024年5月10日(金) 出典:ロイター https://www.reuters.com/world/uk/scotland-reports-case-mad-cow-disease-2024-05-10/ スコットランド政府は2024年5月10日(金)、国内南西部の農場で古典的な牛海綿状脳症(BSE)、いわゆる狂牛病の症例を確認したと発表した。これは、英国で2年以上ぶりの発症例である。政府は、影響を受けた施設及び接触した動物に対して予防的な移動制限を課しており、発症源を特定するためのさらなる調査が進行中であると声明で述べた。また、人間の健康にリスクはないと付け加えた。「この孤立した症例に関連するリスクは最小限であることを、農家及び一般の皆様にご安心していただきたい。しかし、心配な農家の方は獣医のアドバイスを求めることを勧める。」と、主任獣医官のシーラ・ウォアス氏は述べた。BSEは1980年代後半に英国で初めて検出され、そこから欧州の他の地域に広がり、2000年代初頭までウシの群れを荒廃させた。これは、人間の脳を侵すクロイツフェルト・ヤコブ病と関連している。世界動物保健機関(WOAH)によると、近年BSEの発生率は著しく減少しており、現在では年間発生件数がほぼゼロに近いと推定されている。英国で前回確認された古典的BSEの症例は2021年であり、2023年には非典型的な症例が報告されていた。古典的BSEは汚染された飼料の摂取によって発生し、非典型的BSEは自然発生的かつ散発的に発生する形態を指している。農業大臣のアンドリュー・ミューア氏は、スコットランドで古典的BSEの症例が発見されたことが、北アイルランドのリスクがほとんどないという状態に影響を与えないことを保証した。この発表は、スコットランド政府がエアシャーの農場で古典的BSEの症例を確認したというニュースを受けて行われた。ミューア大臣は次のように述べた。「古典的BSEの陽性症例の確認は稀であり、発症が確認された点は残念であるが、BSE監視の管理が十分に強固で厳格であり、問題をできるだけ早期に特定するのに効果的であることを証明している。現時点では北アイルランドとの関連はなく、この発見が北アイルランドのBSEリスク状態に影響を与えることはない。」症例の発生源を特定するための調査が進行中であり、移動制限が実施されている。2023年11月にイングランドでウシにブルートン病が発見されて以来、グレートブリテンから北アイルランドへのウシの移動はすでに制限されている。ミューア大臣はさらに次のように述べた。「食品基準庁と協力して、北アイルランドの食肉工場や飼料会社に厳格な管理を行い、北アイルランドの食物連鎖の安全性を確保している。北アイルランドの牛肉は安全な摂取に供している。汚染された飼料がBSEの原因となることがあるため、農家の担当者には責任を持って飼料を調達し、関連する伝達性海綿状脳症(TSE)法規を遵守し、供給された飼料の適切な記録を維持するよう強く勧める。スコットランド政府と引き続き連携し、調査が進展する中で最新情報を提供するよう求めていく。」

ID	感染症(PT)	出典	概要
5	クロストリジウム・ディフィシル感染	Emerging Microbes & Infections. 13(2024)2408322	<i>Clostridioides difficile</i> の配列型(ST)35は、世界中のヒト及び動物で見つかっているが、そのゲノム疫学及びクローン伝播については詳細な検討がなされていない。本研究では、6カ国から分離された176株の <i>C. difficile</i> ST35の塩基配列を決定した。リボタイプ(RT)はRT046(97.2%)、RT656(1.1%)、RT427(0.6%)、RTA1-78(1.1%)の4つが同定された。176株のST35ゲノムと公開されている50株のゲノムの系統解析から、時間、地域、感染源に依存しない2つの特徴的な系統が明らかになった。しかし、抗菌薬耐性遺伝子の分布は2つの系統間で有意に異なっていた。ヒトではコアゲノムの一塩基多型(cgSNPs)が2つ以下の株で院内伝播と共同伝播が起こり、ブタではcgSNPsが4つ以下の株でクローン伝播が認められた。市中感染した <i>C. difficile</i> 感染症患者3人と、疫学的関連を有するブタの間でクローン伝播が確認され、9つ以下のcgSNPsの差が認められた。トキシンB(TcdB)濃度はブタ分離株と比較してヒト分離株で有意に高く、ST35分離株は他のSTよりも強い孢子形成能を示した。本研究は、 <i>C. difficile</i> ST35の種内及び種間クローン性伝播に関する新たなゲノム学的知見と疫学的証拠を提供した。
6	クロストリジウム・ディフィシル感染	J Vet Med Sci. 86:7(2024)769-776	子ブタにおける <i>C. difficile</i> の病原性については依然として議論の余地があり、 <i>C. difficile</i> のコントロールが子ブタの健康を守るのに役立っているかどうかは不明である。 <i>C. difficile</i> の存在と子ブタの下痢との関連を明らかにするために、下痢のある子ブタと下痢のない子ブタから分離株を得た。さらに、ブタ由来 <i>C. difficile</i> とヒト由来 <i>C. difficile</i> の遺伝的関係を明らかにするために、 <i>C. difficile</i> 分離株の全ゲノム配列決定(WGS)を行った。2021年に日本国内の5農場にて新生児のブタから下痢便及び非下痢便を採取した。ブタ由来 <i>C. difficile</i> とヒト臨床例由来 <i>C. difficile</i> との関係を明らかにするために、 <i>C. difficile</i> 分離株のWGSを実施した。毒素陽性の <i>C. difficile</i> は、下痢のある子ブタで有意に多かったが、 <i>C. difficile</i> 全体では下痢のある子ブタとない子ブタで差がなく、子ブタにおける毒素陽性 <i>C. difficile</i> と下痢の関連が示された。直接的な因果関係を確立し、子ブタにおける下痢の他の要因を探るためには、さらなる研究が必要である。WGSの結果、日本産ブタ由来の高病原性PCRリボタイプ078株を含む <i>C. difficile</i> sequence type(ST)111は、海外株(ヒト臨床株、動物由来株)及び日本人ヒト臨床株のST11と近縁であった。毒素陽性の <i>C. difficile</i> は子ブタに下痢を引き起こす可能性があり、高病原性 <i>C. difficile</i> はブタやヒトの間で世界的に広がっていると言える。
7	テニア症	PLoS Negl Trop Dis. 18(2024)e0012400	本研究は、ザンビアにおける有鉤条虫感染を制御するためのリングアプローチ(感染症の広がりを防ぐため、地理的にターゲットを絞って治療を行う方法)について、地域住民の参加意欲に焦点を当て、その実現可能性及び今後の課題について検討したものである。研究は、活発な有鉤条虫感染の根絶が達成された地域で実施された。対象となるすべてのブタとヒトが4~6カ月間隔でサンプリングされ、その後リングアプローチが実施された。サンプリング中にブタが糞虫症陽性を示すたびに、陽性のブタから半径50m以内に居住するすべての人間とブタが治療を受けた。ブタの陽性が認められないときは、ヒトの便サンプルの陽性結果がリングの作成に用いられた。2018年6月から2019年10月にかけて、4回のサンプリングとそれに続くリング治療が実施された。1回のサンプリングにつき2~4つのリングアプローチが展開され、リング内に住む適格なヒトとブタの89%から100%が治療を受けた。結果、参加者はリングが展開された際に進んで治療を受け、当該地域においてはリングアプローチが検討される可能性が示された。しかし、ブタ糞虫症に対する精度の高い診断ツールがないこと、便サンプルの入手が困難であることから、同様の環境におけるリングアプローチの有用性はさらに評価する必要があり、またリングアプローチにおける治療法の改善が必要である。
8	ブドウ球菌感染	Scientific Reports. 14(2024)19747	本研究は、南アフリカの養豚場におけるブタ、労働者、環境から採取したブドウ球菌の種分布、集団構造、抗生物質耐性メカニズムについて評価するものである。西ケープ州にある2カ所の商業用養豚場から、健康であると思われるブタ143頭及び養豚場労働者21名から鼻腔スワブを、また飼料及び水桶から45の環境スワブを採取した。ブドウ球菌は分離及び同定され、抗菌薬感受性試験及びイルミナ全ゲノムシーケンシングが実施された。185のブドウ球菌属(<i>Staphylococcus</i> spp.)分離株が得られ、最も一般的なのは <i>Mammaliococcus sciuri</i> (n=57; 31%)であり、次いで <i>Staphylococcus hyicus</i> (n=40; 22%)及び <i>Staphylococcus aureus</i> (n=29; 16%)であった。 <i>Staphylococcus epidermidis</i> (<i>S. epidermidis</i>)は主に養豚場労働者(n=18; 86%)から同定された。テトラサイクリン耐性はすべての種で観察され、その割合は67~100%に及んだ。 <i>M. sciuri</i> 分離株の大多数(n=40; 70%)はメチシリン耐性であり、78%(n=31)が <i>mecA</i> を保有していた。 <i>M. sciuri</i> 分離株はSCCmec_type_III(3A)及びSCCmec_type_VIII(4A)に関連する遺伝子/要素を持ち、主にST61株で観察された。ST239株はSCCmec_type_III(3A)に関連していた。研究より、南アフリカの西ケープ州における養豚場のブドウ球菌に高いテトラサイクリン耐性率が確認され、このことから、養豚業におけるテトラサイクリン系抗生物質の使用を規制する必要性があると考えられた。
9	レプトスピラ症	Epidemiology and Infection. 152(2024)e118	レプトスピラ症は細菌性ズノーシス症であり、世界的に公衆衛生上のリスクが増大している。太平洋諸島の地域社会はレプトスピラ症の流行に対して非常に脆弱であるが、地域的な感染促進要因についてはまだ十分に理解されていない。本研究では、太平洋諸島におけるヒトのレプトスピラ感染の要因を明らかにするために系統的レビューを行った。42の研究から得られた知見を記述的に統合した。熱帯の太平洋諸島では、性別(男性)、年齢(20~60歳)、民族性(先住民族)、社会人口統計学的要因(貧困等)、生活習慣要因(水泳、園芸、開放創等)、環境要因(季節性、多雨、げっ歯類、ウシ、ブタへの接触等)により感染が生じていた。これらの島で可能な緩和戦略としては、地域レベルでの疾病報告基準の強化、水の安全性の確保、ネズミ駆除、養豚管理の改善、個人レベルの情報キャンペーン等がある。対照的にニュージーランドでは、主に職業的な曝露が多く、食肉業者や農場労働者が感染している。従って、介入策としては、職業的慣行の調整や家畜ワクチン接種の促進等が考えられる。病気伝染の複雑さと気候変動がもたらす将来の課題を考慮すると、太平洋諸島におけるレプトスピラ症対策にはさらなる行動が必要である。

ID	感染症(PT)	出典	概要
10	レンサ球菌感染	ProMED-mail 20240724.8717724	2024年7月23日、Hanoi市CDCの代表者によると、36歳の患者は、病気のブタを屠殺し食べた2日後、症状が現れた。患者は、頭痛があり、嘔吐が多く、興奮しており、Bach Mai病院での脳脊髄液検査の結果、レンサ球菌が陽性であった。集中的な治療の結果、患者の健康状態は安定し、経過観察のためBa Vi地区総合病院に移された。ブタレンサ球菌は、人獣共通感染症であり、ヒトからヒトへの感染は確認されていない。ほとんどの症例は、屠殺、生の血液プリンや他の加熱不十分な食品を食べたことに関連している。生の血液プリンを食べておらず、ブタを屠殺していないのに病気になる患者もいる。原因は、生の豚肉を食べるか、皮膚病変や引っ掻き傷を通して病気のブタに接触することである。ブタレンサ球菌は、食品を十分に加熱すると完全に死滅する。したがって、厚生省予防医学局は、病気が死んだブタを屠殺しないこと、特に傷がある場合は、保護手袋なしで生肉を扱わないことを推奨している。ブタレンサ球菌に感染すると、敗血症、化膿性髄膜炎、あるいはその両方を併発することがある。型によっては、軽症から重症まで進行し、最初から重症の感染者もいる。潜伏期間は、数時間から4～5日と個人差がある。症状としては、発熱、悪寒、吐き気、嘔吐、下痢等があるが、頻度は高くはないので、一般的な消化器疾患や食中毒と間違えやすい。また、頭痛、耳鳴り、難聴、肩こり、だるさ、敗血症や化膿性髄膜炎による皮膚の壊死性発疹等がみられる。ブタレンサ球菌感染による死亡率は約7%である。治療が遅れた患者は死亡する危険性が高く、生存した場合でも後遺症が残る率は非常に高く、約40%である。
11	レンサ球菌感染	ProMED-mail 20240807.8718001	Hanoi市は、Quoc Oai地区で、2024年、初めてのブタレンサ球菌感染による死亡患者(86歳女性)を記録した。2024年8月5日午後、Hanoi市保健局の代表者によると、患者は、高熱、頭痛、傾眠があり、家族が彼女を103軍病院に連れて行った。そこで血液と脳脊髄液の検査を受けた結果、患者は“ブタレンサ球菌”陽性であった。集中治療を受けたが、高齢と重病の為、彼女は助からなかった。患者が、どこでブタレンサ球菌に感染したかは現在のところ不明である。2024年に入ってから、Hanoiでは、死亡者1人を含む7人のブタレンサ球菌感染者を記録した。昨年同時期と比較すると、感染者数は6人減少し、死亡者数は同じである。Hanoi市CDCの代表者によると、“ブタレンサ球菌”のほとんどの症例は、屠殺、生の血液プリンや加熱不十分な豚肉で作られた食品を食べることに関連している。また一部には、屠殺や加工中に皮膚病変や引っ掻き傷を通して感染したブタと接触することによる症例もある。ブタレンサ球菌は、ブタの上気道、特に鼻、消化管、生殖器に常在している。ブタレンサ球菌に感染すると、敗血症、化膿性髄膜炎、あるいはその両方を併発することがある。病型によって、軽症から重症まで進行し、最初から重症の感染者もいる。免疫不全の人は死亡リスクが高い。現在のところ、ヒトのブタレンサ球菌感染を予防するワクチンはない。しかしこれらの細菌は、食品を十分に加熱すれば完全に死滅する。したがって、加熱した食品を食べ、沸騰したお湯を飲み、病気のブタや死んだブタを屠殺せず、特に手に傷がある場合は、生の豚肉を素手で扱わない。生や加熱不足の豚肉を扱う時は、手袋を着用し、肉を扱った後は、手をよく洗うこと。
12	レンサ球菌感染	ProMED-mail 20240811.8718082	Thai Nguyen疾病管理センターの代表者によると、50歳の男性患者は、2024年8月6日、血液の蒸しプリンを食べ、その直後に発熱、消化器障害、翌朝、頭痛、めまい、吐き気があり、Dinh Hoa総合病院に救急搬送された。医師は、患者を敗血症性ショック、脳卒中を伴うレンサ球菌感染症と診断し、Thai Nguyen中央総合病院に移送したが、2024年8月9日午後、患者は死亡した。専門家によると、ブタレンサ球菌感染症のほとんどの症例は、屠殺、生食、加熱不足の豚肉から作られた食品に関連している。屠殺や加工中に、皮膚の病変や傷を通して感染したブタと接触する症例もある。上記の患者は、蒸した血液プリンを食べており、病気の進行により急速に死に至ったが、脳卒中によるものかもしれない。ブタレンサ球菌は、ブタの上気道、特に鼻、消化管、生殖器に常在している。ブタレンサ球菌に感染すると、敗血症、化膿性髄膜炎、あるいはその両方を併発することがある。病型によって、病気の進行は軽症から重症まであり、最初から重症の感染者もいる。免疫不全の人は死亡リスクが高い。レンサ球菌感染症による死亡率は約7%である。患者が生存した場合の後遺症の発生率も非常に高く、約40%である。潜伏期間は数時間から4～5日で、各人の体質によって異なる。症状としては、発熱、悪寒、吐き気、嘔吐、下痢等があるが、頻度は高くなく、一般的な消化器疾患や食中毒と間違えやすい。また、頭痛、耳鳴り、難聴、肩こり、だるさ、敗血症や化膿性髄膜炎による皮膚の壊死性発疹等がみられる。現在のところ、ヒトのブタレンサ球菌感染を予防するワクチンはない。しかしこれらの細菌は、食品を十分に加熱すると完全に死滅する。したがって、加熱済みの食品を食べ、沸騰したお湯を飲み、病気のブタや死んだブタを屠殺せず、生の豚肉を素手で扱わないこと、特に手に傷がある場合は注意すること。生や加熱不足の豚肉を扱う時は、手袋を着用し、肉を扱った後は、よく手を洗うこと。
13	レンサ球菌感染	ProMED-mail 20241007.8719226	タイ疾病管理局(DDC)は、東北地方下部の4県でブタレンサ球菌に関連して12人が死亡したことを受け、未加熱の豚肉に注意するよう国民に警告した。DDC第9事務所のTaweechai Wisanuyothin所長は、2024年10月5日にNakhon Ratchasima, Buri Ram, Surin, そしてChaiyaphumの4つの監視地域で、2024年1月7日から9月3日の間に149件の細菌による難聴が報告されたと述べた。患者数が最も多かったのは、Nakhon Ratchasimaで89例(うち死亡6例)、次いでChaiyaphumで31例(うち死亡4例)、Surinで16例(うち死亡1例)、Buri Ramで13例(うち死亡1例)であった。報告された症例の大半は65歳以上の高齢者であったとTaweechai所長は述べた。ブタレンサ球菌は、ピーナツ型の細菌で、通常ブタの上気道、特に扁桃腺や鼻腔、消化管や生殖器に存在する。Taweechai所長によると、人間は生の豚肉、ブタの血液、内臓を摂取したり、それに触れたりすることでこの細菌に感染する可能性があるという。また、傷口やひっかき傷、目の結膜から侵入することもあるという。通常、この細菌による感染は発熱として現れ、その14日後に難聴となる。患者は、高熱、激しい頭痛、めまい、嘔吐、首のこわばりに悩まされる。免疫力が低下しているヒトでは、永続的な難聴を引き起こし、死に至ることもある。DDCは、信頼できる供給元から豚肉を購入し、60～70°C[140～158°F]で10分以上加熱された肉、内臓、血液を摂取することを推奨している。また、調理済みの豚肉と生の豚肉を手取る際は、別々の器具を使用する必要があるという。臭いが強かったり、色が黒かったりする豚肉は買わないこと。また、生の豚肉や血に素手で触れないこと。傷口がある場合はしっかりと覆い、ブタに触った後は毎回手を洗うこと。「もし報告されているような症状があれば、すぐに医師の診察を受けること」とTaweechai所長は述べた。

ID	感染症(PT)	出典	概要
14	レンサ球菌感染	ProMED-mail 20241205.8720442	<p>ブタを屠殺してから約5時間後、32歳の男性は発熱、腹痛、嘔吐を訴えた。医師は、彼を多臓器不全を引き起こすブタレンサ球菌感染症と診断した。家族は、以前に屠殺されたブタが原因不明で死んだと言い、家族は気の毒に思い、肉を屠殺して食べた。その男性は、ブタが屠殺されてから5時間後に症状を現し、自宅近くの医療施設に運ばれ、その後、Ha Dong総合病院に移送された。熱帯病科では、患者は無気力で、呼吸困難、激しい腹痛、嘔吐が続いていた。2時間後、患者は皮膚の紫斑病、呼吸不全、低血圧を発症し、集中治療室に移された。2024年12月3日、Ha Dong総合病院集中治療・抗中毒科のTran Dinh Thang博士は、患者が、ブタレンサ球菌に感染し、多臓器不全、肝臓や腎臓の損傷、血液凝固障害を引き起こしたと述べた。医師は透析、大量の抗生物質の投与、及び綿密な経過観察を行った。1カ月後の現在、患者の健康状態は安定している。ただし、患者が病院に来るのが遅れた為、難聴のリスクがあり、定期的に監視する必要がある。ブタレンサ球菌症は、人獣共通感染症であり、ヒトからヒトへの感染の証拠はない。ほとんどの患者は、屠殺、生の血液プリン、又はその他の加熱が不十分な食品の摂取に関連している。血液プリンを食べるのではなく、ブタの屠殺をしていなくても発病する例もある。原因は、感染した豚肉を生で食べたり、加工中に皮膚の損傷や引っかき傷を通じて感染したブタと接触したりすることである。重症の場合、この病気は敗血症性ショック、循環虚脱、低血圧、重度の血液凝固障害、出血性壊死、塞栓症、多臓器不全に急速に進行し、昏睡状態や死亡する可能性もある。これを防ぐには、病気のブタや原因不明のブタを屠殺せず、豚肉を徹底的に調理し、生の料理、特にブタの血のプリンを食べないようにする必要がある。生の豚肉を屠殺又は加工する場合は、保護具(手袋)を使用すること。</p>
15	レンサ球菌感染	Zoonoses Public Health. 71(2024)673?682	<p>本研究は、<i>Human streptococcosis</i> (<i>Streptococcus</i> 属の細菌/レンサ球菌による感染症)の発生が繰り返されるタイの地域におけるブタのサプライチェーンをネットワーク分析アプローチを用いて精査し、適切な介入のために重要な関係者を特定することを目的とした。対象地域では2014年以降、ブタレンサ球菌症が継続的に報告されており、症例数は21件から63件の範囲で変動している。アンケート調査を用いて、ブタのサプライチェーン関係者(養豚場、食肉処理場、豚肉販売業者、レストラン、消費者)からデータが収集された。結果、サプライチェーンは314のノードと296の有向関係から構成されていることが判明した。小売業者が、全体の次数、外次数、媒介中心性の値でそれぞれ35、34、65.3と最高値を示した。内次数は消費者が9で最高値となり、この消費者は9つの異なる移動式食料品店から豚肉製品を購入していたことから、移動式食料品店も関係者であることが特定された。公衆衛生及び獣医療当局は、ブタレンサ球菌症の全体的な予防と管理を強化するために、サプライチェーンのすべての関係者を対象としたサーベイランス活動を拡大すべきである。</p>
16	ロタウイルス感染	Transboundary and Emerging Diseases. 2024(2024)4232389	<p>本研究の目的は、ポーランドで流通しているヒトA群ロタウイルス(RVA)株の遺伝子型パターンの同定、ブタRVAとの系統関係の評価、及び再集合体ウイルス株と人獣共通感染症ウイルス株の同定である。RVA陽性のヒトの便サンプル(n=166)は、下痢症状を有する生後1カ月の小児から74歳までの成人から採取された。RT-PCR法を用いて、ヒトRVAのG及びP遺伝子型、並びに再集合体ウイルス株及び人獣共通感染症ウイルス株の完全な遺伝子型を同定した。ヒト便中の166株のRVAのうち148株(89.2%)について、G及び/又はPの遺伝子型が同定された。ヒトG4P[6]、ブタG1P[8]、G5P[6]RVAの全ゲノム解析から、ブタヒト再集合体と人獣共通感染症RVAの存在が明らかになった。ブタからG4P[6]が検出されたことで、人獣共通感染症RVAのリザーバーとしての役割が確認された。</p>
17	旋毛虫症	Int J Food Microbiol. 425(2024)110889	<p>旋毛虫症の主な感染源は豚肉及び豚肉由来製品の摂取であるが、スポーツハンティングの対象となる野生動物の肉を食べることで感染する。本研究は、アルゼンチンで2010年、2021年、2022年に発生した旋毛虫症アウトブレイクに関連して、生食されたソーセージ中のブタ、野生のイノシシ、ピューマを同定するための分子学的方法を開発・実施し、食品中に存在する旋毛虫属を同定することである。種同定システムを実施した結果、豚肉とピューマ肉の混合組成のもの、ピューマ肉のみを含んでいるものが確認された。旋毛虫は3件すべてのアウトブレイクに関与していた。本研究で開発・実施された種同定システムにより、ヒト症例に関連する旋毛虫の2種の宿主種が明らかになり、また、感染したピューマ肉を介したヒトへの人獣共通感染症のリスクが明らかになった。</p>
18	旋毛虫症	Outbreak News Today. https://outbreaknewstoday.substack.com/p/trichinosis-in-argentina-2024?utm_source=publishation-search	<p>アルゼンチン当局は、2024年11月中旬迄に国家健康監視システム(SNVS2.0)で旋毛虫症の疑いのある症例853件を報告しており、そのうち395件が確定、5件が疑い、16件が除外され、残りの437件は疑いのままであり、その多くは調査中の流行に関連している。この期間に確認された395例のうち、303例(76.7%)がBuenos Aires州、Cordoba州、Santa Fe州にまたがるCentro地方で発生した。Cuyo地方では80例(20.3%)、北西アルゼンチン地方では10例(2.5%)が報告された。残りの2例(0.5%)は南部地域から報告された。分析期間中に確認された395例のうち、151例(38.2%)には少なくとも1つの疫学的既履歴があった。このうち127例(84.1%)がソーセージの摂取を、44例(29.1%)が豚肉の摂取を報告した。一方、21例(13.9%)が、他の旋毛虫症例と共通の供給源からの食品の摂取歴を報告していた。旋毛虫症は、回虫である<i>Trichinella spiralis</i>によって引き起こされる寄生虫症である。嚢胞化した幼虫が、付着した生肉や調理不十分な肉を摂取すると、胃酸によって幼虫が放出され、腸内で成虫に成長する。メスは約1週間後に幼虫を放出し始め、血流に入り、骨格筋に到達して幼虫を被包化する。腸内で成虫が活動すると、急性食中毒に似た胃腸症状が出ることもある。突然の発熱、筋肉痛、顔の一部の腫れを伴う痛みが初期の典型的な徴候である。これに網膜出血等の眼症状が続くこともある。感染が重くなると、心疾患、呼吸器疾患、神経疾患が起こり、心不全による死亡が最も多くみられる。幼虫を多く摂取すればするほど、この病気は深刻になる。どのような予防法があるのか？</p> <ul style="list-style-type: none"> 新鮮な豚肉、豚肉製品、野生動物の肉はすべて160Fになるまで加熱する。肉はピンク色から灰色に変わる。 豚肉を-13Fで少なくとも10日間冷凍すれば、シスト(嚢胞)は死滅する。例外として、セイウチやクマの肉に含まれる旋毛虫の株は耐寒性がある為、上記のように調理する必要がある。 肉の燻製、塩漬、乾燥は効果がない。

ID	感染症(PT)	出典	概要
19	旋毛虫症	ProMED-mail 20241130.8720365	Foggia県で旋毛虫症、又は旋毛虫症の症例が2件発見された。この寄生虫病は、Foggiaの地域保健機関(ASL) SIAVエリアBの責任者Angelo Castelluccioの説明によると、十分な獣医学的検査を受けていない動物の肉を食べた場合、イノシシ肉や豚肉、特に生肉やソーセージの生食や加熱不足によってヒトに感染する可能性がある。重大な症状としては、下痢、筋肉痛、リウマチ様症候群、脱力感、まぶたの浮腫、羞明、発熱等があり、入院が必要になることもあり、適切な治療が行われないと重篤な合併症を引き起こす可能性がある。地方衛生局の動物由来食品衛生獣医師局は、汚染が疑われる食品の管理と監視を開始した。疫学調査を担当するASLの食物由来病グループは、Monte Sant'Angelo市で新たな感染者を確認した。この新たな集団発生は、2023年にLamisのSan Marco自治体で記録された症例に追加されるものである。「イノシシやブタの肉、特に生肉やソーセージ用の肉は、乾燥も塩漬けも燻製も寄生虫の幼虫を駆除することができない為、予防的な旋毛虫検出器の検査を受けなければ感染する可能性があることを強調しておくことが重要である」とASLは報告している。
20	条虫感染	One Health. 19(2024)100908	<i>Echinococcus granulosus sensu lato, s.l. (E. granulosus s.l.)</i> による嚢胞性エキノコックス症(CE)は、「顧みられない人獣共通の熱帯病(Zoonotic neglected tropical diseases (zNTDs))」と言われるイタリアの風土病であり、イノシシを含むいくつかの中間宿主と確定宿主であるイヌで持続する。農村部や家畜飼育地域に住む人々、風土病地域でアウトドア活動を行う人々は、 <i>E. granulosus s.l.</i> 感染にさらされている。本研究では、イノシシ狩猟者における <i>Echinococcus spp.</i> への曝露状況、狩猟犬が寄生虫リザーバーとして果たす役割、及び感染リスクに関する狩猟者の知識を評価することを目的とした。2022年12月から2023年5月にかけて、南イタリアのイノシシ狩猟者(n=122)の血液と血清を採取するとともに、社会人口統計学的データ、解剖学的データ、CEに関する知識について、情報収集した。血清は、市販の酵素結合免疫吸着法(Euroimmun ELISAR、ドイツ)で <i>Echinococcus spp.</i> IgGを検査した。さらに、狩猟犬(n=208)からの糞便検体は、寄生虫学的及び分子生物学的手法により、条虫卵のスクリーニングが行われた。全体として、6名(4.9%)の狩猟者が <i>Echinococcus spp.</i> に対するIgGで陽性又は境界域を示し、うち1名は石灰化肝嚢胞を認めた。さらに、狩猟犬の糞便検体(13/208)からは6.3%の条虫卵の有病率が記録され、2検体から <i>E. granulosus sensu stricto (s.s.)</i> が分子学的に同定された。統計解析の結果、狩猟者の地理的出身地等の寄生虫曝露に関連するリスク因子(オッズ比>1、p<0.05)が明らかになった。本研究より、狩猟者の <i>E. granulosus s.l.</i> 曝露、狩猟犬の寄生虫分子陽性反応、 <i>Echinococcus spp.</i> の感染リスク等に関する認識の低さが確認されたことから、狩猟者との健康監視と教育プログラム推進が重要であると考えられた。
21	炭疽	ProMED-mail 20240905.8718584	日付:2024年9月3日(火)出典:ワイオミング家畜委員会 https://content.govdelivery.com/accounts/WYLIVESTOCK/bulletins/3b2db04 ワイオミング州カーボン郡にある複数のウシ群で炭疽病が確認された。これは1970年代以来、ワイオミング州のウシで確認された初めての炭疽病である。ワイオミング州獣医研究所(WSVL)は、2024年8月31日(土)午後遅くに診断を確認した。WSVLと民間の獣医師は、地域の複数のウシ群に影響を与え得る炭疽病の診断において重要な役割を果たした。炭疽病は、自然界に広く分布する <i>Bacillus anthracis</i> という細菌によって引き起こされる細菌性疾患である。この芽胞形成細菌は、土壤中で数年から数十年にわたって生存することができ、通常は干ばつの後に大雨が降った後に散発的な発生が見られる。家畜や野生動物は、汚染された土壌、植物、水中の芽胞を吸い込んだり摂取したりすることで感染することがある。家畜における炭疽病の臨床症状には、突然死、虚弱、よろめき、呼吸困難、発熱、血便等がある。WSVLによる炭疽病の診断後、複数の州機関と民間の獣医師が迅速に対応した。人獣共通感染症の診断時には、動物とヒトの健康を守ることが重要である。と、ワイオミング州獣医師のハリー・ハセル博士は述べている。ワイオミング家畜委員会は、生産者や民間の獣医師と協力して、さらなる拡散を防ぎ、人への曝露を制限するために、死骸の処理とワクチン接種の推奨を継続する。炭疽病ワクチンは複数の家畜種に対して承認されており、非常に効果的である。2024年9月4日(水)午後7時に、エルクマウンテン消防署で複数の機関が参加する公開会議が開催される。炭疽病に一致する臨床症状や突然死を経験している家畜の所有者は、民間の獣医師又はワイオミング家畜委員会(Isbforms-applications@wyo.gov)に連絡するように要請している。
22	炭疽	ProMED-mail 20241109.8719904	NatoreのGurudaspur郡で炭疽がウシからヒトに広がっている。郡内のNazirpur連合で炭疽患者として最初に特定されたのは12例であった。感染したウシの肉を喫食したり感染した家畜を屠殺して川に流して処分したことで、この病気がヒトに広がったと推測された。過去2カ月間に同連合で少なくとも30頭のウシ及びヤギが炭疽菌に感染したと報告されており、疫学疾病対策研究所の研究チームがこれらの村でのアウトブレイクについて調査をしたところ、感染者の1人がウシ6頭を飼育し、1カ月以内に4頭のウシが病気になったためそれらを屠殺し、肉を安値で販売した結果、彼は炭疽菌に感染したことが分かった。

ID	感染症(PT)	出典	概要
23	鳥インフルエンザ	CDCホームページ. https://www.cdc.gov/bird-flu/spotlights/avian-situation-update.html?CDC_AAref_Val=https://www.cdc.gov/flu/avianflu/spotlights/2023-2024/avian-situation-update.htm	2024年4月26日に更新されたH5N1技術報告書が公開された。この報告書は、2023年12月29日の報告書を更新し、それ以降に世界中で報告された7件の新しいH5N1のヒトへの感染症例(カンボジア5件、米国(テキサス州)1件、ベトナム1件)と、野鳥、家禽、その他の動物における最近の活動、米国の乳牛や他の動物における多州にわたる発生、及び米国でのA(H5N1)ウイルス感染の監視に関する最新情報が含まれている。報告書は、現時点で一般市民へのリスクは低いままであると結論付けている。2024年4月26日に、労働者保護のための暫定的な推奨事項が更新され、屠殺場で働く人々を含むように拡大された。テキサス州のヒトへの感染が発生した症例からのウイルスをよりよく特性化するための作業を継続している。今週、商業的に利用可能で推奨されるインフルエンザ抗ウイルス薬に対する感受性のテストが完了した。テストは、テキサス州のヒトへの感染症例からA(H5N1)ウイルスが、先週発表されたように、パロキサビルマルボキシル及びノイラミニダーゼ阻害剤に感受性があることを確認した。これらの発見により、テキサス州のヒトへの感染症例からのウイルスが、商業的に利用可能な米国FDA承認及び推奨されるインフルエンザノイラミニダーゼ及びポリメラーゼ酸性タンパク質(PA)エンドヌクレアーゼ阻害剤抗ウイルス薬に感受性があることが確認された。現在、ノイラミニダーゼ阻害剤のオセルタミビルは、確認された又は疑われるA(H5N1)ウイルス感染の人々の抗ウイルス治療及び曝露後予防のために推奨されている。ウシからの200以上のH5N1公開ウイルス配列の抗ウイルス薬耐性特性を調べている。CDCは、ノイラミニダーゼ阻害剤に対する感受性の低下と関連することが知られているマーカー(NA-T438の変化)を持つウイルスを1つ発見した。この変化は、過去に野鳥や家禽から分離されたH5N1ウイルスでまれに見られていた。継続的な監視が重要である理由を強調している。テキサス州のヒトの感染症例からのH5N1ウイルス株を増殖させ、追加の実験室実験に使用している。ウイルスがヒト及びウシの呼吸器上皮細胞及びウシの乳腺上皮細胞でどのように増殖するかを調査を行っている。フェレットに感染させて結果を評価することにより、さまざまなシナリオでのウイルスの重症度と伝染性の評価が行われている。フェレットは、人間と同様にインフルエンザウイルスに感染し、広がるため、人間のモデルとして使用されている。事前パンデミックA(H5)ワクチンで以前にワクチン接種された人々からのヒト血清(血液)をテストし、テキサス州の人間の症例からのウイルスにどのように反応するかを確認していくところである。ウシへの感染拡大防止策/HPAI A(H5N1)の乳牛における多州にわたる発生は、2024年3月25日にUSDAによって初めて報告された。これは、A(H5N1)ウイルスがウシで発見された初めての事例である。USDAはまた、ウイルスが乳牛の群れ間の移動や乳牛の飼育施設から近隣の家禽飼育施設への移動を通じて広がり、多くの納屋のネコにも感染したと報告している。さらに、USDAは、動植物検疫局(APHIS) NVSLが、影響を受けた群れから来た無症状の乳牛の肺組織サンプルからウイルスを発見したと報告している(ただし、当該個体種は食物供給には入っていないことが確認されている)。今週、USDAは「家畜におけるHPAIの検査及び報告を義務付ける連邦命令」を発行し、家畜の健康保護の強化を行う方針を示している。州間移動の前に、乳牛は承認された国立動物衛生研究所ネットワークの研究所でインフルエンザウイルスの陰性検査を受ける必要があるとしている。当該連邦命令に関する詳細については、HPAI家畜検出情報で確認することができる。動物における当該ウイルスの拡散を抑えることは、潜在的なヒトへの曝露量を減らし、公衆衛生リスクを抑えるのに役立つ。
24	鳥インフルエンザ	CDCホームページ. https://www.cdc.gov/bird-flu/spotlights/h5n1-response-08022024.html	2024年4月以降、米国では複数の州で乳牛等への動物における鳥インフルエンザA(H5N1)ウイルスへの感染が確認されている。そのうちヒトへの感染は13例報告されており、そのうち4例は病気の乳牛への接触と関連し、9例は鳥インフルエンザA(H5)に感染した家禽への接触に関連していた。USDAは、米国13州の172の乳牛群で、乳牛の鳥インフルエンザA(H5)感染の症例を確認したと報告している。CDCはコロラド州のヒトへ感染したウイルスの配列を解析し、この配列は主に鳥類の遺伝的特徴を維持しており、ヒトへの感染拡大により適した変化を欠いている。また、疾患の重症度の増加やヒトへの感染拡大への適応を示唆する変化も含まれていない。全体として、コロラド州におけるこの鳥インフルエンザA(H5N1)ウイルスの解析は、ヒトへの健康リスクが現在低いままであると述べている。CDCはヒトにおける鳥インフルエンザA(H5N1)ウイルス感染の予防、モニタリング、及び公衆衛生調査に関する暫定的な勧告を出している。
25	鳥インフルエンザ	CDCホームページ. https://www.cdc.gov/flu/avianflu/spotlights/2023-2024/h5n1-analysis-texas.htm	2024年4月2日、CDCは、テキサス州でHPAI A(H5N1)ウイルスに感染していることが確認された患者から採取された検体から同定されたインフルエンザウイルスゲノムの塩基配列を決定し、ウシ、野鳥、家禽から得られたHPAI A(H5N1)配列と比較した。ウイルス配列はHAクレード2.3.4.4b HPAI A(H5N1)であり、個々の遺伝子セグメントはテキサス州のUSDA検査で乳牛から検出されたウイルスと密接に関連していた。この遺伝子型を持つ他のウイルスは、2023年11月以降、米国の野鳥、家禽、スカンク1匹から散発的に検出されている。当該患者検体からのウイルス配列には、ウシからのウイルス配列と比較してわずかな変化が確認されたが、ウシとヒトの配列はともに、鳥類でみられる本来の遺伝的特徴を維持しており、大部分は哺乳類に感染するのに適した変化を欠いている。今回解析されたヒト分離株のゲノムには1つの変化(PB2 E627K)があり、これは哺乳動物宿主に対するウイルスの適応に関連していることが知られている。この変化はHPAI A(H5N1)ウイルスや他の鳥インフルエンザのサブタイプ(例: H7N9)に感染したヒトや他の哺乳動物で以前に検出されていたが、ヒト-ヒト間で拡散したという証拠はない。ウイルスは感染後、宿主の中で増殖しながら変化を遂げることがある。さらに、当該患者の検体から得られたウイルス配列には、インフルエンザ抗ウイルス剤耐性に関連することが知られているマーカーは見つかっておらず、このウイルスは、すでに製造業者が入手可能であり、必要であればワクチン製造に使用可能な、既存のHPAI A(H5N1)ワクチン候補ウイルス2種と非常に近縁である。全体として、テキサス州におけるHPAI A(H5N1)ウイルスの遺伝子解析は、ヒトの健康リスクは現在のところ依然として低いというCDCの結論を支持するものである。テクニカルサマリー: 当該患者から採取した鼻咽頭スワブ及び結膜スワブ検体から得られたウイルスRNA抽出物を鋳型として、次世代シーケンシングが実施された。注目すべきことに、当該患者は結膜炎のみを訴えており、呼吸器症状やその他の症状はなかったため、鼻咽頭検体で検出されたウイルスRNA濃度が低くなり、当該患者には呼吸器感染がなかったことが示唆された。ヘマグルチニン(HA)遺伝子、ノイラミニダーゼ(NA)遺伝子とともにRNA転写・複製複合体(PB2、PB1、PA、NP)にも、ヒトや他の哺乳動物で効率的な複製に影響を与える種特異的な決定因子がある。ヒト検体のポリメラーゼ塩基性タンパク質2(PB2)には、テキサス州の乳牛から検出されたウイルスのPB2遺伝子と比較して、PB2 E627Kの変異があり、これは通常、野鳥に循環するA(H5N1)ウイルスに見られる。HPAI A(H5N1)ウイルスのヒト感染例でPB2 E627Kが確認されたことはあるが、この変異を含むウイルスに感染した後でヒトに伝播したという証拠はない。この変異は、野鳥や家禽に循環するウイルス由来のPB2遺伝子や、最近テキサス州で検出されたウシのウイルスには見られなかったことから、結膜炎の発症中に後天的に獲得された変異の可能性がある。疫学的、ウイルスゲノム解析を総合すると、この症例は単一の人獣共通感染症イベントであり、HAIには哺乳類への感染を促進するような変化は見られなかったが、PB2には哺乳類での複製を促進する可能性がある置換が見られた。これは、人獣共通感染症ウイルスへの警戒を怠らず、その特徴を明らかにし続けなければならないことを示している。全体として、このヒト症例から得られたウイルスのゲノム解析は、HPAI A(H5)クレード2.3.4.4bウイルスに関するCDCのリスク評価を変えるものではない。家禽類で発生中のHPAI A(H5)及び野鳥やウシで検出されたHPAI A(H5)に関連するヒトの健康に対する全体的なリスクは、依然として低いままである。

ID	感染症(PT)	出典	概要
26	鳥インフルエンザ	ProMED-mail 20240401.8715735	<p><テキサス州保健局からの報告> テキサス州保健局は、テキサス州における鳥インフルエンザA(H5N1)ウイルスのヒト感染1例を報告した。この症例は、鳥インフルエンザに感染していると推定される乳牛に直接接触したヒトであることが確認された。この患者は眼の炎症が唯一の症状であったが、先週末にインフルエンザの検査を受け、週末にCDCにより確定検査が行われた。この症例により一般市民に対するリスクが変わることはなく、依然として低いままである。CDCによれば、これは米国で2例目のH5N1インフルエンザのヒト感染例であり、ウシへの接触に関連した1例目である。2024年3月、テキサス動物衛生委員会は、テキサス州パンハンドル地域で乳牛が鳥インフルエンザA(H5N1)に感染した最初の事例を発表した。 鳥インフルエンザA(H5N1)は通常は野鳥に感染し、時にヒトに感染することもあるが、ヒトからヒトへ感染することは極めて稀である。初期の検査では、ウイルスがヒトに感染しやすくなるような変化は見られなかった。</p> <p><CDCからの報告> 米国テキサス州から報告され、CDCが確認したHPAI A(H5N1)ウイルス(「H5N1鳥インフルエンザ」)の検査で、米国内の1人が陽性となった。この患者はテキサス州でHPAI A(H5N1)ウイルスに感染していると推定される乳牛と接触していた。患者は唯一の症状として眼の充血(結膜炎と一致)を訴え、回復している。この感染によって、米国の一般市民に対するH5N1鳥インフルエンザの人体衛生リスク評価について、CDCが低いと考えていることに変更はない。米国でヒトにおいてインフルエンザA(H5N1)ウイルスの陽性反応が報告されたのは今回が2例目である。 乳牛のHPAIは、2024年3月25日にUSDAによりテキサス州とカンザス州で初めて報告された。カンザス州の2つの酪農場とテキサス州の1つの酪農場から集められた病気のウシの未殺菌乳と、テキサス州の別の酪農場のウシの咽頭ぬぐい液から、世界的にトリの間で広まっているのと同じ遺伝子クレード2.3.4.4bのHPAI A(H5)ウイルス陽性反応が出た。2024年3月29日、USDAのNVSLは、テキサス州から最近ウシを受け入れたミシガン州の乳牛群でHPAIを確認した。A(H5N1)ウイルスの予備分析では、これらのウイルスが現在米国FDAに承認されている抗ウイルス薬に耐性を持つような変化は見つかっていないため、これらのウイルスには抗ウイルス薬が有効であると考えられている。関連するクレード2.3.4.4bウイルスに対して開発されたワクチン候補ウイルスは、必要であればワクチン製造に利用可能であり、予備的な分析によれば、H5N1インフルエンザウイルスに対して妥当な予防効果を示す可能性がある。米国FDAとUSDAによると、市販の牛乳は市場に出回る前に殺菌されているため、現時点では安全性に懸念はないという。</p>
27	鳥インフルエンザ	ProMED-mail 20240425.8716157	<p>HPAIの検査及び報告を義務付ける連邦命令 2024年4月24日(水) 出典: APHIS https://www.aphis.usda.gov/sites/default/files/dairy-federal-order.pdf USDAのAPHISは、HPAIの拡散を防ぐためにこの連邦命令を発行している。HPAIは、家禽や野鳥の伝染性ウイルス性疾患である。HPAIは家禽にとって致命的であり、数日のうちに全群を壊滅させる可能性がある。HPAIは、家禽産業、動物の健康、人間の健康、貿易、そして世界経済にとって脅威となっている。米国では、HPAIが乳牛にも検出されている。この連邦命令は、改正された動物健康保護法(7 U.S.C. § 8301 et seq.)に基づいて発行されている。第8305条は、農務長官が、家畜の病害虫の米国内への導入又は米国内での拡散を防ぐために必要と判断した場合、動物、物品、又は輸送手段の州間通商における移動を禁止又は制限する権限を与えている。第8308条は、農務長官が家畜の病害虫を検出、制御、又は根絶するための作業及び措置を実施する権限を与えている。第8315条は、農務長官が動物健康保護法を実施するために必要と判断した命令を発行する権限を与えている。この命令が実質的な規則と見なされる場合、APHISは、さらなる遅延が病気の拡散を促進し、家畜、家禽、乳業、そして潜在的には人間の健康に対する潜在的な害を増大させると判断し、通知及びコメントなしにこれらの要件を課す正当な理由があると判断した。2022年2月8日、USDAは、米国の商業用家禽群においてHPAI H5N1ウイルスを確認した。2022年2月以降、USDAは州及び家禽生産者と迅速に協力し、1100件以上のHPAI検出に対応し、米国の家禽生産及び貿易へのウイルスの影響を軽減してきた。2024年3月下旬以降、USDA、米国FDA、CDC、州の獣医及び公衆衛生当局、並びに全国動物衛生研究所ネットワーク(NAHLN)の研究所は、乳牛におけるHPAI H5N1ウイルスの出現を調査している。NAHLNは、連邦、州、及び大学関連の動物診断研究所の全国的に調整されたネットワーク及びパートナーシップである。これらの研究所は、USDAのNVSLIによって公式の連邦動物健康検査を実施するための訓練及び能力試験を受けており、継続的な疾病監視を提供し、疾病事象に迅速に対応し、意思決定者に診断結果を伝達し、動物疾病発生時の診断ニーズに対応する能力とキャパシティを備えている。2024年4月24日時点で、USDAは8州(カンザス州、アイダホ州、ミシガン州、ニューメキシコ州、ノースカロライナ州、オハイオ州、サウスダコタ州、テキサス州)の33の乳牛施設でHPAI H5N1クレード2.3.4.4bウイルスの検出を確認している。また、USDAは、特定の系統発生的証拠及び疫学情報に基づき、5州(カンザス州、ミシガン州、ミネソタ州、ニューメキシコ州、テキサス州)の8つの家禽施設も乳牛で検出されたのと同じHPAI H5N1ウイルス遺伝子型に感染していることを確認している。さらに、APHISのNVSLIは、影響を受けた群れから発生し、食物供給に入らなかった無症状の淘汰乳牛の肺組織サンプルからHPAIを発見した。USDAはすでにHPAIを脅威として認識しており、HPAIに感染した動物の州間移動はすでに禁止されている(9 C.F.R. 71.3(b)参照)。しかし、この新しいHPAI H5N1ウイルス遺伝子型が乳牛で検出されたことは、乳牛に対する新たな動物疾病リスクをもたらし、家禽農場に対する追加の疾病リスクをもたらしている。このウイルスの範囲を引き続き監視し、HPAI H5N1ウイルスのさらなる拡散を防ぎ、家禽及び家畜に対する脅威を軽減するために、当該連邦命令は2024年4月29日(月)から以下の措置を義務付けた。 ①乳牛の州間移動に対する義務的検査(承認されたNAHLNでウイルス検査を受けること。動物の移動追跡を含む疫学情報を提供すること。APHISが指定する条件に従うこと、等。) ②義務的報告(研究所及び州の獣医は、家畜におけるインフルエンザA核酸検出診断結果(例:PCR又は遺伝子配列決定)、インフルエンザA血清学診断結果をUSDA APHISに報告する。</p>
28	鳥インフルエンザ	ProMED-mail 20240719.8717657	<p>2024年3月下旬に鳥インフルエンザA(H5N1)ウイルスが乳牛で初めて発見された後、米国150以上の乳牛群で検出されている。オクラホマ州は乳牛から鳥インフルエンザA(H5N1)ウイルスを検出した米国の13番目の州になった。これらの症例は、野鳥に感染し、家禽やさまざまな種類の哺乳動物に感染している鳥インフルエンザの広範囲にわたる発生の一部である。2024年は4人の酪農労働者が陽性と判定されたが、CDCは一般市民へのリスクは依然として低いと述べている。オクラホマ州は、酪農家が保護具を利用できるようにし、酪農家に安全対策を強化するよう求めたと州の獣医師は述べている。</p>

ID	感染症(PT)	出典	概要
29	鳥インフルエンザ	ProMED-mail 20241110.8719927	鳥インフルエンザに感染したウシがいる米国の酪農場で検査を受けた労働者の7%が自分自身もウイルスに感染していた。この研究はコロラド及びミシガン州の州保健局と協力し、CDCの疾病調査官が主導した。検査を受けた115人のうち8例が抗体陽性で仕事中に感染したことを示唆している。しかし症状を自覚したのは4例だけであり、病状が非常に軽かった可能性が考えられる。なお、彼らは目の充血や結膜炎、発熱、鼻水、喉の痛み、くしゃみ及び下痢を報告した。また、労働者全員がウシの搾乳を行う搾乳室を掃除したと報告し、感染したほとんどのヒトがウシの搾乳も行ってた。しかし個人用保護具を着用していたヒトはいなかった。
30	鳥インフルエンザA	CCDR. 50(2024)381-386	HPAI A(H5N1)型のアウトブレイクにおける季節性インフルエンザのガイダンス。家禽及び動物における最近のインフルエンザA型のアウトブレイクにより、NAIは生後6カ月以上のすべてのヒトが季節性インフルエンザワクチンを接種すべきであるという勧告を改めて表明した。これは、トリ又は哺乳動物との接触を通じてインフルエンザA型に曝露するリスクが高い可能性のあるヒト(家禽、家畜、屠殺場及び食肉加工工場の労働者、野生生物担当官/研究者及び獣医師等)が含まれる。
31	鳥インフルエンザA	CDC ホームページ. https://www.cdc.gov/media/releases/2024/t1107-mmwr-telebriefing.html	国立予防接種・呼吸器疾患センター長によると、米国ではH5型のヒト感染例が現在までに46例あり、2024年には25例が乳牛で発生した。CDCはミシガン及びコロラドの州保健局と連携し、H5N1型インフルエンザAに感染した乳牛に接触した酪農従事者を対象に血清抗体調査を実施し、サンプルはH5型ウイルス陽性と確認されたウシの酪農場で働いていた115人から採取された。結果、全員がH5N1型抗体検査で陰性であったが、115個中8個(7%)がHPAIに対して血清陽性となった。さらに8例全てウシの搾乳又は搾乳室の清掃を行ったと報告し、これらがリスクの高い活動であることを裏付けた。

ID	感染症(PT)	出典	概要
32	E型肝炎	Int J Food Microbiol. 417(2024)110682	2022年7月から8月にかけて、中国の介護施設におけるE型肝炎のアウトブレイクが報告された。入所者722人のうち77人がE型肝炎と診断され、発症率は10.66%であった。感染者の平均年齢は59.96歳で、女性の発症率は男性よりも高かった。介護者で最も高く、物流管理部門で最も低かったが、統計的な有意差はなかった。遺伝子型は4dであった。症例対照研究より、豚レバーの摂取と生の果物や野菜の摂取が危険因子であることが示された。また、食堂にて生食と加熱調理済み食品を分けていなかったこと、豚レバーの加熱調理時間が不十分であったことが確認され、この衛生習慣がアウトブレイク発生に影響したと考えられた。
33	E型肝炎	J Med Virol. 96(2024)e29777	E型肝炎ウイルス(HEV)は、急性ウイルス性肝炎の原因として流行している病原体であり、HEVの遺伝子型3及び4は人獣共通感染症を引き起こす。現在、HEV遺伝子型4に関するヒトとブタの塩基類似性解析は限られている。本研究では、HEV感染患者(養豚家)及びブタから便検体を採取してHEVのほぼ全長のゲノムを取得し、ジェノタイピングのために系統樹を構築し、HEV配列の類似性を解析した。その結果、患者とブタ6頭(6/30、20.0%)の便からHEV-RNAが検出された。患者及びブタのHEV亜型はいずれも4bであった。また、類似性解析の結果、患者とブタの塩基配列の範囲は99.875~99.944%であった。ブタから分離された4株のアミノ酸配列(ORF1~3)は患者と100%同一であった。この地域の他の患者から分離されたさらに9つのHEV配列の系統樹と類似性解析の結果、この地域の他の感染源ではなく、養豚農家からのHEV配列がその農場のブタと最も近い関係にあることが示された。この研究は、HEV亜型4bがブタからヒトに感染することを、塩基配列レベルで間接的に証明するものである。異なるHEV亜型の特徴を探るため、さらなる研究が必要である。
34	H1N1インフルエンザ	Outbreak News Today. https://outbreaknewstoday.substack.com/p/ohio-pennsylvania-report-new-human?utm_source=publication-search	Ohio州とPennsylvania州の保健当局は、最近、新型インフルエンザA「変異型」ウイルスによる新たなヒトへの感染を報告した。Ohio州では、インフルエンザA(H1N1)変異型(A(H1N1)v)ウイルスの感染が報告された。患者は、発病前に農業イベントでブタに接触していた。Pennsylvania州では、患者がインフルエンザA(H1N2)vに感染し、ブタへの職業上の接触があった。患者は2人とも18歳以上で、2024年8月10日の週に症状を発症し、医療機関を受診した。両患者は、基礎疾患の為、短期間入院したが、その後回復している。両症例の発症後、両症例の密接な接触者の中で症状は報告されておらず、これらの症例に関連したヒトからヒトへの感染は確認されていない。2023~2024年シーズン中に報告された変異型インフルエンザ症例は、Pennsylvania州(A(H1N2)vが4例)、Michigan州とColorado州(A(H3N2)vが各1例)、Ohio州(A(H1N1)vが1例)の計7例である。 ブタインフルエンザは、ブタに定期的にインフルエンザの発生を引き起こすA型インフルエンザウイルスによって引き起こされるブタの呼吸器疾患である。ブタインフルエンザウイルスは、通常ヒトには感染しない。しかし、通常はブタで循環し、ヒトには感染しないインフルエンザウイルスが、散発的にヒトに感染することがある。このような場合、これらのウイルスは「変異型ウイルス」と呼ばれる。また、これらのウイルスは、ウイルスの亜型呼称の末尾に「v」を付けることで表すことができる。アメリカ合衆国では、H1N1v、H3N2v、H1N2vウイルスのヒト感染が検出されている。変異型ウイルスを含むインフルエンザは、ほとんどのヒトは回復するが、健康なヒトでも重症化することがある。呼吸器症状を経験したヒトは、インフルエンザの検査を考慮する為に、最近、家畜に触れたことを医師に伝えるべきである。季節性インフルエンザの治療に使用される抗ウイルス薬は、小児や成人の新型インフルエンザA「変異型」ウイルスの治療にも使用できる。これらの治療薬は、発症初期に服用するのが最も効果的である。CDCは、以下の予防行動を推奨している： ・重症インフルエンザ合併症のリスクが高い人は、ブタとの接触を避けること。 ・ブタのいる場所では飲食をしたり、口に物を入れたりしないこと。 ・ブタのいる場所におもちゃ、おしゃぶり、コップ、哺乳瓶、ベビーカー等を持ち込まない。 ・屋外又は豚舎内でブタに触れる前後には、石鹸と流水で手を洗う。石鹸と水がない場合は、アルコールベースの手指消毒薬を使用すること。 ・感染のリスクを減らす為に、豚舎や展示場でのブタとの接触を避けるか、最小限に抑える。 ・可能であれば、病気であることが分かっている、又は疑われるブタとの直接の接触は避けること。あなたが病気かもしれないブタと接触する必要がある場合は、個人用保護具を着用すること。これには防護服、手袋、口と鼻をしっかりと覆うマスクが含まれる。親や介護者は、子供用の呼吸器やマスクを選ぶ際に、特定のグループに対する配慮を確認する必要がある。 ・ブタを飼っている場合は、病気の兆候(食欲不振、発熱、疲れ目、目の充血、不快感、咳、鼻水等)に注意する。
35	H1N1インフルエンザ	Outbreak News Today. https://outbreaknewstoday.substack.com/p/pennsylvania-reports-2-additional?utm_source=publication-search	Pennsylvania州保健当局は、新型インフルエンザAウイルスによるヒト感染2例を追加報告した。患者は2人とも密接な接触者であり、インフルエンザA(H1N2)変異型(A(H1N2)v)ウイルスに感染していた。両患者とも18歳以上で、2024年6月22日の週に医療機関を受診した。これはPennsylvania州及び米国で今年報告された2例目と3例目のヒト感染例である。最初の症例は3月下旬に報告された。 通常ブタに循環する(ヒトには循環しない)インフルエンザウイルスがヒトから検出された場合、それは「変異型」インフルエンザウイルスと呼ばれる。変異型インフルエンザウイルスによるヒトへの感染のほとんどは、ブタに接触した後に起こるが、ヒトからヒトへの感染も起こりえる。ほとんどの場合、変異型インフルエンザウイルスは、ヒトからヒトへ容易かつ持続的に伝播する能力を示していないことに注意することが重要である。新型A型インフルエンザウイルスによるヒト感染の早期発見と調査は、感染のリスクを理解し、適切な公衆衛生対策を講じる為に非常に重要である。動物性A型インフルエンザウイルスのヒトへの感染と拡散のリスクは、簡単な行動をとることで減らすことができる。CDCは、見本市の主権者に対し、以下の行動を考慮するよう推奨している。フェアを計画する際に考慮すべき行動： ・フェア開催中に病気の動物が確認された場合、スタッフと出展者は、CDC Updated Interim PPE Recommendations to Reduce Exposure to Novel Influenza A Viruses Associated with Disease in Humans(人間の疾病に関連する新型インフルエンザAウイルスへの曝露を減らす為のCDC更新中間個人防護具(PPE)勧告)に従い、適切なPPEを用意する。これには、防護服、手袋、ゴーグル、口と鼻を覆う呼吸器又はフィット感のあるマスクが含まれる。 ・過密状態を防ぐ為、来場者の通行を管理する。可能な限り、一方向の動線を確保し、動物や動物の寝床への一般客の立ち入りを指定区域外に制限する。 ・フードサービス、売店、食事時のピクニックテーブルは、動物エリアから離れた場所に設置する。 ・家畜、ブタ、ウシ、その他の動物との密接な接触を制限する為、一般客と動物展示の間に物理的な障壁を設ける。家畜、ブタ、ウシとの密接な接触をしない、生きた動物の体験型展示に代わるものを使用する。(例：ウシを模した乳搾り展示) ・十分な換気を行う。密閉された畜舎又は部分的に密閉された畜舎については、清浄な外気の量を増やし、清浄な空気が動物よりも先に来訪者や作業員の上を流れるようにし、埃の攪乱を最小限に抑える。

ID	感染症(PT)	出典	概要
36	H1N1インフルエンザ	WHO ホームページ. https://www.who.int/emergencies/disease-outbreak-news/item/2024-DON532	<p>2024年8月19日、ベトナムの国際保健規則(IHR)参加国連絡窓口(NFP)は、ラオス人民民主共和国と国境を接するベトナム北部の山岳地帯、Son La省で、ブタ由来インフルエンザA(H1N1)変異型(v)ウイルスによるヒト感染症例が、研究所で確認されたことWHOに通知した。これはベトナムで初めて報告されたインフルエンザA(H1N1)vウイルスによるヒト感染である。ウイルスへの曝露源は、現在のところ不明である。国際保健規則(IHR)2005によれば、新型インフルエンザAウイルス変異型によるヒト感染は、公衆衛生に大きな影響を与える可能性のある事象であり、WHOに報告されなければならない。現在入手可能な情報に基づき、WHOは、このウイルスが一般住民にもたらす現在のリスクは低いと評価している。WHOは引き続き、ヒト(又は動物)の健康に影響を及ぼす可能性のある循環インフルエンザウイルスに関連したウイルス学的、疫学的、臨床的变化を検出する為の世界的な監視と、リスク評価の為のタイムリーなウイルス共有の重要性を強調している。</p> <p>2024年8月19日、ベトナムIHR NFPは、ブタ由来インフルエンザA(H1N1)vウイルスによるヒト感染が研究所で確認されたことWHOに報告した。患者は、基礎疾患を持つ70歳の女性で、ラオス人民民主共和国と国境を接するベトナム北部の山岳地帯にあるSon La省の出身であった。患者は、Hung Yen省の故郷の村で1カ月を過ごした後、帰省して1週間後に発熱、倦怠感、食欲不振を発症した。2024年6月1日、症状が持続した為、地区病院に入院し、基礎疾患に加えて肺炎と診断された。6月5日、迅速検査でインフルエンザAが確認された。同日、彼女は国立熱帯病院(NHTD)に移送され、6日間の治療を受けたが、6月11日に死亡した。6月5日に採取された検体が、逆転写ポリメラーゼ連鎖反応(RT-PCR)で検査され、6月18日にA型インフルエンザウイルスが確認されたが、亜型分類は決定されなかった。8月1日、ゲノム配列決定によりインフルエンザA(H1N1)vウイルスが同定され、8月5日、CDCのインフルエンザWHO協力センター(WHO CC)により確認された。ウイルスの特徴付けが進行中である。</p>
37	H3N2インフルエンザ	ProMED-mail 20240811.8718086	<p>Michigan州保健社会福祉省(MDHHS)とIngham郡保健局は、インフルエンザA H3N2変異型(H3N2v)のヒト感染例をIngham郡住民の1人から確認した。インフルエンザA H3N2vは、最近、酪農場や家禽農場に影響を与えたHPAI A(H5N1)とは異なる。インフルエンザA H3N2vは、ブタ又はブタと関連しているが、患者の感染源はまだ調査中である。</p> <p>患者は、2024年7月下旬にインフルエンザA H3N2vの陽性反応を示した。この検体は、CDCの新興感染症プログラムの一環として、インフルエンザウイルス配列のモニタリング強化の為にMDHHSの検査局に送られ、そこで再びインフルエンザA H3N2vの推定陽性と判定された。Michigan州におけるインフルエンザによる救急外来受診は、現在のところ少なく、MDHHSは、一般市民に対するインフルエンザA H3N2vのリスクは低いと予測している。今回の感染とブタやその他の動物との関連は確認されていないが、MDHHSは、農場、見本市、展示会等での感染の可能性を避ける為に、一般市民ができる予防策を再確認する:</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家畜小屋や展示場での飲食を控えること。 ・玩具、おしゃぶり、コップ、哺乳瓶、ベビーカー又は同様のものをブタのエリアに持ち込まないこと。 ・重篤なインフルエンザ合併症のリスクが高く、フェアに参加する予定のある人は、ブタや豚舎を避けること。 ・石鹸と水でよく手を洗うこと。石鹸と水がない場合は、アルコールベースの手指消毒剤を使用すること。 ・目、鼻、口に触れない。細菌はこのような経路で広がる。 <p>H3N2vのような変異型ウイルスによる病気も含め、ほとんどのヒトは、インフルエンザから回復するが、これらの感染症は時として、健康なヒトでも重い病気を引き起こすことがある。呼吸器症状が出た場合は、インフルエンザの検査を考慮する為に、最近、家畜に触れたことを医師に伝えること。季節性インフルエンザの治療に使用される抗ウイルス薬は、小児や成人のH3N2vの治療にも使用できる。これらの治療薬は、発症初期に服用するのが最も効果的である。米国におけるブタからヒトへの感染拡大のほとんどは、農業従事者、又はイベント中にブタが展示される農業フェアやふれあい動物園等の参加者に関連している。感染拡大が起こることは稀であるが、新型インフルエンザの人獣共通感染症という点では、ブタと家禽(ヒトとともに)歴史的なA型インフルエンザの3種の一部である。H5N1が乳牛に波及し、それに続いてヒトを含む複数の接触種に波及することで、3種が4種になるかどうかは時間がたてばわかるであろう。</p>
38	H3N2インフルエンザ	ProMED-mail 20240821.8718291	<p>Saskatchewan州は、2024年7月、呼吸器ウイルス報告でブタインフルエンザの症例を報告した。2024年7月11日、(H3N2)vと呼ばれるブタ由来のA型インフルエンザのヒト感染例が1例報告された。この「v」は、通常ブタで循環しているウイルス株であるが、ヒトに感染したことを意味し、「変異型」ウイルスと呼ばれている。報告書によれば、ヒトに感染するケースは稀であり、ヒトからヒトへの感染は確認されていない。この患者は入院せず、回復した。以上が報告書の詳細である。連邦政府のウェブサイトによれば、ブタ由来のインフルエンザのヒトへの感染は、通常、感染したブタに直接又は間接的に接触した後に起こるといふ。記事では、この人が職業上、又は農業フェアやふれあい動物園等でブタと直接接触したかどうかは不明である。これらは、ブタインフルエンザウイルスが、人間に感染する典型的な場所だからである。</p>
39	H3N2インフルエンザ	ProMED-mail 20240922.8718915	<p>Minnesota州保健局から、新型インフルエンザAウイルスによる2人のヒト感染が報告された。患者は、2人ともインフルエンザA(H3N2)変異型(A(H3N2)v)ウイルスに感染していた。両患者とも18歳未満で、2024年9月7日の週に医療機関を受診し、入院はせず、病気から回復した。州公衆衛生局の調査によると、両患者は互いに接触者ではないが、発病前に同じ農業フェアに参加しており、1番目の子供は間接的に、2番目の子供は直接ブタと接触していた。1人目の患者の調査中に、公衆衛生局職員は、その家庭で別の、おそらく無関係と思われる疾病が発生していたことを確認した。農業フェアに参加した翌日、家族全員が症状を発症した。1人目の患者の家族1人が検査を受け、SARS-CoV-2陽性であった。症例を含む家族全員が回復した。その後、症例患者が新たな症状を呈し、インフルエンザA陽性となり、さらにA(H3N2)vと同定された。他の家族は元気であった。2例目の調査中、接触者から罹患者は確認されなかった。いずれの症例においても、インフルエンザA(H3N2)vのヒトからヒトへの感染は確認されなかった。これらの報告を含めると、2023~2024年シーズン中に9例の変異型インフルエンザウイルス感染症例が報告されている。(A(H1N2)v 4例、A(H3N2)v 4例、A(H1N1)v 1例)。通常、ブタで循環する(ヒトでは循環しない)インフルエンザウイルスがヒトから検出された場合、それは「変異型」インフルエンザウイルスと呼ばれる。変異型インフルエンザウイルスによるヒトへの感染のほとんどは、ブタに接触した後に起こるが、ヒトからヒトへの感染も起こりえる。ほとんどの場合、変異型インフルエンザウイルスは、ヒトからヒトへ容易かつ持続的に感染する能力を示していないことに留意することが重要である。</p>

ID	感染症(PT)	出典	概要
40	HIV感染、C型肝炎	AABB. https://www.aabb.org/news-resources/news/article/2024/05/22/uk-prime-minster-issues-apology-to-victims-of-blood-contamination	英国のRishi Sunak首相は、1970年代及び1980年代に同国が血液供給の汚染を最小限にとどめられなかったことについて犠牲者並びにその家族に謝罪した。この謝罪は1970年から1991年の間に26000例超の英国市民が輸血によってC型肝炎に感染し、1250例がHIVに感染したことを明らかにした画期的な報告書が月曜日に発表された後に行われた。報告書は少なくとも3000例の英国人の死亡が汚染された血液によるものであるとしている。
41	Q熱	J Clin Microbiol. 62(2024)e0078024	野生のブタは、ヒトのQ熱の原因菌である <i>Coxiella burnetii</i> の拡散に寄与する可能性がある。本研究では、ヒトのQ熱の発生率が低いハワイと高いテキサスの野生のブタ個体群における <i>C. burnetii</i> の血清有病率を評価した。血清陽性率はハワイで0.19%、テキサスでは6.03%であり、野生のブタがQ熱の伝播や拡散のリザーバーとなる可能性を否定できないことを示した。テキサスでは、野生のブタの血清陽性率とヒトのQ熱発症率の空間的重複が確認された。研究より、ハワイとテキサスにおける野生のブタ個体群に関連する <i>C. burnetii</i> への曝露について、潜在的リスクは低いものの、検出可能なレベルであることが示された。